

コロナ禍の影響が深刻化するなか、企業の営業担当者は水道事業体などに直接足を運ぶ対面営業の自粛・中断を余儀なくされた。本来は、事業体が抱える技術的課題を細やかにリサーチする日々の営みの中で、ニーズに合致する自社製品を提案するとともに、新製品開発に繋げる橋渡しの役割も担う。各社がしのぎを削るオリジナル製品は知恵と技術の結晶であり、優れたヒット商品も数多く生まれてい

る。コロナ禍でこうした製品をPRできる機会が限られていることを受け、本紙は多彩な製品展開を誇る清水合金製作所に注目。同社の敏腕営業マンに各回1人ずつ登場頂き、イチオシ商品と営業活動におけるエピソードなどを紹介頂く全4回の連載を企画した。

さらに、同社の耐震補修弁の耐震性能実験を監修する宮島昌克・金沢大学教授に各製品の所見を伺った。

清水合金製作所

連載シリーズ①

営業マン
数珠つなぎ

中国四国営業所
課長 久保 克史 氏



イチオシ
製品

可とう式 ポリパイソフ



芯ズレや地盤変位を吸収 小松島市水道部で初採用

先陣を切るのは久保克史・中国四国営業所課長。2010年に大阪営業所から現営業所に異動し、四国4県全域を担当するなか、水道事業体や設計事務所、管材商社、水道設備会社などに対し日々営業活動を行っている。担当地域の水道関係者が抱えるバルブ周りの技術的課題を綿密に聞き取り、その克服に向けて積極的に提案する。

こうした日々の取り組みが結実し、小松島市水道部は2018年度に『可とう式ポリパイソフ』の採用を決めた。

久保課長は同製品の概要について「当社はソフトシール仕切弁と水道配水用ポリエチレン管継手を一体化したポリパイソフを販売しています。採用頂いた可とう式は、耐震性の高いポリパイソフの片側継手部をボール形構造とすることで360度回転し、最大15度もの可とう角に対応可能です」と紹介する。

継手部が可とうすることで管路の強靱化や施工性の改善に大きく寄与する。「布設工事において融着不良の原因となる芯ズレや、地震などの地盤変動に伴う変位を可とう部で吸収できる点が最大のセールスポイントです。障害物を回避する場合においても可とう部を活用し、より少ないバンド管で切り直し配管が可能です」。

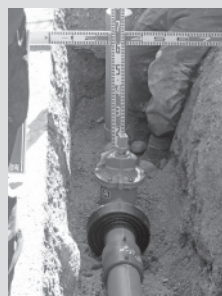
こうした技術的アドバンテージが従来製品と比較し、どの程度注目を集められるのかを探るところから営業活動を始めた。導入のメリットを具体的かつわかりやすく説明して回るなか、小松島市水道部が強く関心を寄せた。同部は管路の更新事業に積極的に取り組み、重要給水施設につながるφ150以上の管路や、漏水が多発する小口径管の更新工事を優先的に進めている。

「小松島市水道部様は南海トラフ巨大地震が発生すると、平野部全域で液状化が発生する可能性が非常に高く、布設するHPPE管のさらなる強靱化を図りたいという考えをお持ちでした。こうしたなか、タイミング良くカタログやモックアップを持参し、製品説明を行うことができました。従来製品と同価格であることも高く評価頂き、φ100と150の販売開始とともに採用頂きました」と振り返る。

施工現場と社内の技術系スタッフを橋渡しし、新製品開発や改良につなげる役割も強く意識している。「技術開発部門の社員とともに同市の現場に伺いました。岩盤箇所での施工でしたが、現場の様子を実際に確認したことで、施工性のさら

なる改良も含め、今後の開発のヒントを得ることができたと喜んでいました。メーカーの社員が積極的に現場に赴き、ユーザー様の声を直接伺い、より良い製品開発に反映させることが本当に大切だと改めて実感しました」と熱っぽく語る。

その上で「可とう式ポリパイソフは地盤変動が起こりやすい地層の境目や軟弱地盤、配管の片側がコンクリートなどで固定されている構造物の周りなど、歪みや捻れの発生が予想される場所で耐震性を大きく向上させ、災害からライフラインを守ることができる製品です。HPPE管で管路整備をされている他の事業体でも前向きに検討いただきたいですし、今後も本製品をはじめ、多様な製品を現場状況に応じて紹介して参ります。実際に採用いただき、少しでも喜んでいただければ本当にうれしいですね」と語り、目を輝かせる。



管路の強靱性や施工性の改善に大きく寄与



高松水道展のブース来場者に熱心に説明

宮島教授のコメント



ポリエチレン管は柔軟であり、地盤変形を吸収する能力が大きいですが、仕切弁などの剛性の大きい属具と接続した場合には接続部に変形が集中することが容易に想像できる。可とう式ポリパイソフは、片側の継手部をボール形構造として360度回転でき、さらに最大15度もの可とう角に対応することができる。そのため、このような不都合を容易に解消することができ、さらには断層変位や液状化地盤の大変形など、ポリエチレン管だけでは吸収しきれない大きな変形への対応を可能とするものであり、管路の耐震性能向上が大いに期待できる。また、施工時の芯ズレや管のねじれを解消することにも大きく貢献できると期待される。